

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第4号）、大豆作情報（第1号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第4号）、大豆作情報（第1号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

この情報はホームページ
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00323270/index.html>
にも随時公開しています。

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R1 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R1 (hr)	平年比 (%)
6月	4	23.2	22.6	-0.5	28.0	28.1	0.1	19.3	18.1	-1.2	57.8	0.0	0	21.2	41.1	194
	5	23.8	23.6	-0.2	28.2	29.9	1.7	20.4	18.5	-1.9	76.2	0.0	0	17.6	53.2	302
	6	24.4	25.0	0.6	28.5	28.2	-0.3	21.3	22.3	0.9	86.7	53.5	62	16.1	7.8	48

6月4半旬~6半旬の気象は、気温は平年並みであるが寒暖差が平年より4ほどあり、降水量は平年比20%と少なく、日照時間は平年比181%と長かった。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：7月2日）

項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概要
コシヒカリ (白石町須古)	本年値					出穂期は平年よりも7日早い6月26日。 現在、穂揃い期~乳熟期である。
	平年値					
平年比(差)						
夢しずく (武雄市橋町)	本年値	33.4	133	6.2	37.0	葉齢は平年より少し遅れている。草丈は平年並み、葉色は平年よりやや濃い。茎数は平年より少ない。
	平年値	33.7	152	6.8	35.5	
	平年比(差)	99%	88%	-0.6	+1.5	
ヒノヒカリ (白石町新明)	本年値	30.3	62	5.9	36.8	葉齢は平年より少し進んでいる。草丈は平年より高く、葉色は平年よりかなり濃い。茎数は平年よりかなり少ない。
	平年値	23.1	99	5.4	27.8	
	平年比(差)	131%	63%	+0.5	+9.0	
さがびより (武雄市橋町)	本年値	27.9	60	5.0	32.9	葉齢は平年並み。草丈は平年より高く、葉色は平年並み。茎数は平年より少ない。
	平年値	21.7	83	5.0	33.0	
	平年比(差)	128%	73%	±0	-0.1	

注) 平年値はH21~H30の10年間の平均。なお、R1よりヒノヒカリについては耕作者が変更したため、平年値は参考値とする。

(耕種概要)

品 種	年 次	移植日 (月日)	栽植密度 (株/m ²)	苗質		備考
				苗丈(cm)	葉令(L)	
夢しずく	本年値	6月16日	18.0	13.0	2.9	前作 麦
	平年値	6月15日	18.5	14.6	3.0	-
ヒノヒカリ	本年値	6月17日	15.0	10.6	2.9	前作 麦
	平年値	6月22日	16.6	14.2	3.6	-
さがびより	本年値	6月22日	15.0	11.8	3.4	前作 麦
	平年値	6月21日	16.0	14.1	3.3	-

注) 平年値はH21～H30の10年間の平均。なお、R1よりヒノヒカリについては耕作者が変更したため、平年値は参考値とする。

3. 一般田の生育状況

(1) セタコシヒカリ

平年より幼穂形成が早く、現在穂揃期～乳熟期となっています。情報田の出穂期は6月26日で、平年より7日早い。

一部、幼穂形成期に十分な水管理ができていなかった圃場があった。また、穂揃いがやや悪く、熟れむらなどによる品質低下が懸念される。

(2) 普通期水稻(夢しずく、ヒノヒカリ、さがびより)

気温は平年並みで、日照時間は平年より長いですが、寒暖差のため苗の伸長は昨年よりも短い傾向です。

(3) 病害虫発生予察情報(6月27日付 県農業技術防除センター)

	葉いもち(穂いもち病)		トビロウカ		セジロウカ		斑点米カメムシ	
	平年比	前年比	平年比	前年比	平年比	前年比	平年比	前年比
早期コシ	やや少	並	-	-	-	-	並	並
早植水稻	並	やや多	並	並	並	並	-	-
普通期	並	並	並	並	並	並	-	-

ウカ類は今後の飛来状況に注意し、圃場における発生状況を確認します。

斑点米カメムシ類は水稻の出穂10日前までに畦畔を含めて除草を行う。

4. 今後の管理

(1) 水管理

セタコシヒカリ

引き続き間断灌水としますが、登熟(米の充実)を良くするため、収穫1週間前までは黒乾～湿潤状態を保ってください。

普通期水稻

浸冠水圃場は、いったん落水し、土壤に酸素を与えた後、新しい水を入れ浅水管理を徹底し、分けつの促進を図りましょう。特に小麦ですき込み等によるガス発生圃場では、田面に酸素をおくるため、圃場内で一番低い田面の足跡に水が残る程度で1～2日落水してください。

(2) 病害虫対策(普通期水稻)

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)が多い圃場では、深水で被害が助長されるため、浅水管理に努めましょう。なお発生が多い場合は、農薬(スクミノン、ジャンボたにくん等)を散布して下さい。

補植用の「置き苗」を残しているところは、いもち病の発生を助長するだけでなく、多くの病害虫の発生源となるため、すみやかに除去してください。

白葉枯病の発生が見られる圃場では、被害の拡大を防ぐため、朝夕、露のあるときは発病田に入らないようにし、多量の追肥を避けるようにする。また、オリメゼート剤粒剤等の農薬を散布してください。

(3) 雑草対策 (普通期水稻)

初期除草剤処理後に水がオーバーフローしたり、散布時期が遅れ、雑草の取りこぼしが見られる圃場や、コウキヤガラやクログワイ等の難防除雑草の発生が見られる圃場では、クリンチャーやバサグラン等の中後期除草剤での対応が必要です。(表1を参照)

オーバーフローした圃場の例

- ・24時間以内の場合 一般の薬剤製品が異なる一発剤の再散布。
- ・24時間以上の場合 中後期剤での対応とする。なお、中後期剤での対応の場合には、除草剤の成分によって使用回数が異なるので、使用に当たっては使用基準を厳守する。

表1. 中後期除草剤一覧

除草剤名	対象	使用時期	備考
クリンチャー 1和粒剤	ヒエ類	移植後7日~㍻I4L 但し、収穫30日前まで	湛水散布(3~4日は湛水)
クリンチャー EW		移植後20日~㍻I6L 但し、収穫30日前まで	落水または湛水散布(3~4日は湛水)。展着剤加用。
ヒエクリーン1和粒剤		移植後15日~㍻I4L 但し、収穫45日前まで	湛水散布(3~4日は湛水)
バサグラン粒剤	広葉雑草	移植後15日~55日 但し、収穫60日前まで	落水~ごく浅く湛水散布。 最低3日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。
バサグラン液剤		移植後15日~55日 但し、収穫50日前まで	
クリンチャーバスME液剤	ヒエ類及び 広葉雑草	移植後15日~㍻I5L 但し、収穫50日前まで	湛水散布(3~4日は湛水)
ハイカット1和粒剤		移植後15日~㍻I3.5L 但し、収穫60日前まで	
ワイドアタックSC		移植後20日~㍻I6L 但し、収穫30日前まで	

5. 大豆作情報

大豆の播種適期は7月1~3半旬となりますが、発芽は土壤水分に大きく左右されます。特に梅雨時期の播種は晴れ間を見計らった播種となりますので、週間天気予報を見て播種作業にあってください。

また、大豆は播種後2日間の酸素要求度が非常に高いため、播種後2日間は降雨により浸水しないことが苗立確保のポイントとなります。

(1) 種子の準備 (種子消毒)

鳥害対策となるだけでなく、種子に付着した雑菌を殺して発芽率の向上、紫斑病対策に効果があるのでキビケン等を用いて必ず行ってください。

(2) 播種方法

雨が多い場合は圃場が乾くのをみて、播種を行って下さい。その際は浅播として下さい。

過乾燥の場合はやや深めに播種して下さい。土壤が乾燥して降雨が期待できない場合は、必ず鎮圧を行って下さい。

播種を行う場合は

耕起済 土壤水分が高い場合は耕起は浅く耕す。

未耕起 粗耕しと播種・耕起の作業を同時に行う(2台のトラクタの組み作業)

播種後3日間の天気	播種の可否	播種深さ	その他
雨(50mm以上の予想)	播種しない	-	-
少雨(50mm以下の予想)	やや荒目に耕し播種	2~3cm	畝立播種
くもり, 雨(30mm以下)	普通に耕し播種	2~3cm	畝立播種
土壤が乾燥すると予想されるとき	細かく耕し播種	5~6cm	鎮圧する

(3) 播種量

播種時期が遅くなると、生育期間が短くなり一株当たりの節数(莢数)が少なくなるため、播種量を増やさないと収量は少なくなります。㎡当たりの莢数確保により、収量を確保するため下記播種様式に従い、播種時期に応じた種子の確保と播種量の調節をしてください。

播種区分	播種期	条間 (cm)	株間 (cm)	本数 (本/株)	1m落下 (粒)	播種量 (kg/10a)
早播き	7/1~5日	70	30	2	7~10	3kg
適期播き	7/5~14日	70	20	2	10~12	3.5~5kg
遅播き	7/15~31日	70	15	2	13~15	5~7kg

大粒種子のため播種量は増加

(4) 除草

播種前に雑草が多い場合は、非選択性茎葉処理剤(ラウンドアップ マックスロード や プリグ ロック L 等)の散布や播種直後の土壤処理剤を散布してください。特に、ヒロハフウリンホオズキが心配される場合はラクサー剤(乳剤または粒剤)を散布してください。

(5) 大雨対策

大豆の収量・品質の確保のためには、播種時期にあった苗立ちの確保が最も重要である。平坦部では7月5~14日を大豆の播種適期としているので、梅雨の合間の晴天日も播種に努める。

梅雨時期の水害により予想される被害

発芽率の低下は、播種直後のものが最も大きく、播種後24時間以内のものでは、半日の冠水で、発芽率は50%以下に低下する。

発芽揃の時期に当るものの被害は、発芽前のものに比べると小さいが、48時間以上の冠水は枯死株(疫病等)が著しく多くなる。

茎の褐変株やしおれ株が全体の3割以上ある場合は、再播種を行う。

梅雨時期の播種に当たっては、以下の点に注意する。

(1) 梅雨の間の播種対策

排水溝の整備や暗渠、明渠の実施などにより、圃場の排水に努め、適期播種できるように圃場の準備を行う。

降雨後には速やかに排水し、トラクタで耕起可能な状態になれば、天候を確認し、耕起して播種を行う。

天候が変わり易い場合は、荒耕起を行わず、1行程で浅く耕起して播種する。

不耕起播種機を導入されている地域では、不耕起播種機の有効利用も検討する。

(2) 梅雨明け後の播種対策

トラクタで耕起できる程度に圃場が乾いたら、耕起のうえ、直ちに播種する。

(可能であれば午後から耕起し、夕方播種するようにする。)